

みつぎ便り

132号
9月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成29年9月1日 https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report/

アオモンイトトンボ

暦の上では秋ですが、この公園のトンボもまだ夏の様子で、池の周辺には色々な種類のトンボが飛び交っています。この中で、あまり目立たない小さなトンボ、イトトンボの仲間の紹介です。イトトンボは、糸のように細いトンボの総称です。

今回は、アオモンイトトンボというトンボで、池の中に湧水、循環水流入している辺り、また池の水が流出している辺りの草に良く現れます。

このトンボは、長さ4cm位で、胴は褐色、複眼と胸、尻の先端の紋が綺麗な水色をしているのが特徴で、糸のように全体が細く弱々しい印象ですが、飛んでいる姿は小さい身体ですが敏しょうで、よく見ていないと見失うことがあります。

この公園の池周りでは、春から秋にかけて色々な種類のトンボが観察できます。これから秋にかけては、良く赤とんぼと言われるノシメトンボがよく見られますので、皆様もぜひ探してみてください。

(圭)



オモダカ（面高、沢潟）

池の北側に流れる小川にオモダカが元気に葉を広げています。日本全国に分布し、かつては河川、沼沢地に生育していましたが、葉は、根元から伸びた数本の葉柄の先につき、ヤジリ形です。

八月から十月に葉柄より長い花柄を伸ばし、三個ずつ輪生した花を数段つけます。上部の花は、雄花、下部の花は、雌花です。雄花、雌花とも白く、果実は、実の周囲に翼を持つ形が集まって球形となります。オモダカの塊茎（かいけい）は苦くて食べら



れませんが、食用として栽培されるクワイはオモダカの変種です。葉の形が人の顔に見え、高く伸びた葉柄の先について目立つことからオモダカ（面高）の名になったという説があります。又、葉の形が矢のヤジリの形をしているので、勝軍草の別名があり、武家が好んで家紋に使ったようです。古くから人々のすぐ傍らにあったらしく、短歌、俳句にも読まれています。

沢潟に 昏れし水面が
また昏れゆく

横山白虹
(薫)